

夢化学小委員会の発足と今後の課題

1 はじめに

平成13年度からスタートした夢化学メディア対応WGは、日本化学未来館での夏休み子ども実験ショーにおける実験教室や「化学なぜナクイズショー」のスタイルの確立、日本化学工業会(日化協)が教育支援・啓発活動などで出版している「おもしろ化学の質問50」や「おもしろ化学史」の電子刊行物化に協力してきた。

そして、日本化学会化学教育協議会と夢・化学21のウェブサイトがリンクを果たしたことを契機として、本WGの機能の一部をホームページ小委員会に移管した。さらに、夢化学メディア対応WGは発展的に解消し、「夢・化学21」キャンペーン事業の対応を中心に、国内の普及活動を担当する夢化学小委員会として再編し、活動することになった。「夢・化学21」キャンペーン事業は、文部科学省・経済産業省の後援を得て(社)日本化学会(社)化学工学会(社)新化学発展協会(社)日本化学工業協会で構成された「夢・化学21」委員会が1993年に設立され、スタートしている。事業の内容としては、「夢・化学21」夏休み子供実験ショー、「夢・化学21」週末実験教室、実験教材の配布、大学・高専化学実験体験教室、全国高校グランプリの開催、国際化学オリンピックへの派遣などがあるが、小委員会としては「夢・化学21」夏休み子供実験ショーの協力と新規事業の企画・提案・実践が主な仕事となる。さらに、各地域で活躍する会員、教育関連機関との連携を強めるためのネットワーク作り、人的交流の活発化、教材、ソフトの開発、参考になる情報の発信・相互情報交換の実施による連携強化を考えていくことになった。

2 16年度活動報告

「夢・化学21」夏休み子供化学実験ショーの開催

今年度は日本科学未来館に会場を移して3回目の夏休み子供化学実験ショーとなり、来場者数は、8月27日(金)~8月29日(日)の3日間で約10,000名と、有料化したにもかかわらず、出足は昨年とほぼ同じで、好調であった。未来館1Fシンボルゾーンでは、10の企業ブースの工夫された実験、7Fでは小委員会のメンバーが企画・参加している小学生対象の体験型実験教室「色のちがうスライムを作ってあそぼう」や3年目にしてほぼ完成に近づいた「なぜナクイズショー」などが実施された。その他多くの小委員会メンバーがショーの運営に携わっていただき感謝に堪えない。

「なぜナクイズショー」のパッケージ化

毎年大好評の「なぜナクイズショー」の実験部分およびクイズショー全体をCDに収録し、全国の科学館等に配布し、化学の啓蒙・普及(実験、映像を使ったクイズショーなど)の一助とする企画・制作が「夢・化学21」キャンペーン事業として進行している。小委員会としても動画のチェックをはじめ協力している。



毎年恒例の「なぜナクイズショー」

3 今後の活動について

「夢・化学21」夏休み子供化学実験ショーの開催

今年度に引きつづき、来年度の「夢・化学21」夏休み子供化学実験ショーは、詳細な日程など関係各方面との調整は、まだこれからではあるが、日本科学未来館を利用し、平成17年8月末の金~日の3日間開催の予定である。

小委員会としては、メンバーを増強し、2つに分け、一方のグループを新生「なぜナクイズショー」のグループとして立ち上げた。さらに完成度の高い「なぜナクイズショー」を目指すとともに、完成間近な「なぜナクイズショー」のパッケージCDを使った普及交流もこのグループの仕事の一部となる。地方の科学館等で「なぜナクイズショー」の講演指導や実験指導の依頼があれば即対応できる体制作りも今年度の重要な課題となる。

また、実験ショーや実験教室の企画・担当も小委員会の腕の見せどころである。

地域への発信

地域の子供たちに実験を通して化学のおもしろさを伝え、化学に対する興味を持つきっかけになってもらえるような企画・実施が小委員会のもう一つのグループの使命である。地域の公民館、小・中学校などに出向き、親子でしかも家庭で安全にできるような出前実験教室などを開催するとともに、このような小・中学生向きの実験指導者の養成も急務であろう。さらに以上のような活動を支える予算的な措置として、科学技術振興機構の「理科大好きコーディネーター支援」や文部科学省の「地域子ども教室推進事業」などの活用が考えられる。

齊藤幸一(開成学園)

夢化学小委員会委員長

夢化学小委員会委員：小川治雄、岡村 寿、小瀬村誠治、齊藤幸一、佐々木和枝、齋藤 潔、坂井英夫、菅原義之、内藤卓哉、友岡克彦、中村 聡、茂串圭男、若林文高